わかはとのけんきゅう
秋大附特支
研究部だより No.7
令和4年8月発行

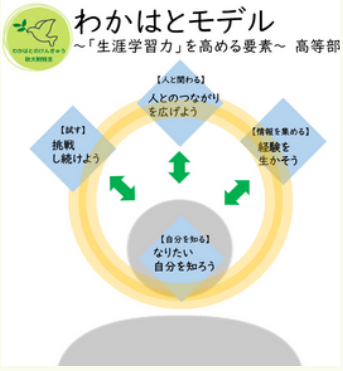
研究主題
新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる
～「生涯学習力」を高める授業づくりを通して～

７月に行われた、「高等部授業研究会」の話題についてお伝えします。

全校授業研究会　高等部

Dスタディ雪グループ　「雪グループの挑戦　其の二　～行ってみよう！～」

〈単元計画より、主なねらい〉
- 「よかったこと」「分からなかったこと」「困ったこと」「次やってみたいこと」の項目で校外学習を振り返り、自分の考えを発表する。
- 利用する店舗、バスや電車の路線、時間など、校外学習に必要な情報を自分が選択した方法で収集し、正確に伝える。
- 自分の考えやその理由を伝えたり、友達の考えを受け入れたりし、全員が納得できるように物事を決める。
- バスや電車を組み合わせて公共交通機関を利用する。



〈授業者のしかけ〉
　見たこと、聞いたことがある情報を言語化し、その言葉をキーワードに調べる活動へとつなげられるよう、導入時に調べる内容についてクイズ方式で確認をした。

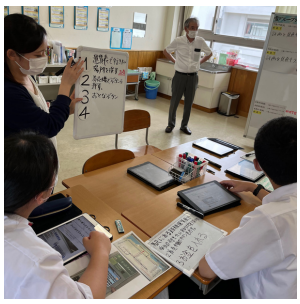
【生徒の様子】
- 写真を手掛かりに自分がもっている知識について積極的に発言しようとする姿が見られた。
- 切符を買う機械→「券売機」という名称を確認できた。

〈授業者のしかけ〉
　一人で切符を購入することへの自信がもてるよう、運賃表をホワイトボードに掲示したり、タブレットで券売機と同様に購入手順を確認できるようにしたりし、切符の購入練習に繰り返し取り組めるようにした。

【生徒の様子】
- 券売機と同じタッチパネル教材に興味もち、意欲的に練習に取り組んだり、何回か練習を繰り返したりしたことで、最後のまとめの場面で普段発言の少ない生徒が自ら挙手して切符の購入手順を説明することができた。

【前時の学習を振り返る】

【タブレットを使って切符の買い方を調べる】


【調べた内容をグループで整理する】

研究会　協議で話題になったこと

A グループ
- 生徒同士の関わりをつなぐための券売機
- 実際の場面で「人に聞く」大切さ
- 今後の発展性として、条件を狭めたり、バスと比較したりすることができるのではないか

B グループ
- 話合いが苦手な生徒でも話せる工夫
- 生徒が意見を出せるようにしたり、話合いを発展させたりするためのキーワードの提示

C グループ
- 思い切って生徒に任せるための工夫
- 文字情報だけでなくyoutubeも活用
- ホワイトボードを穴埋め式にしたり、選択肢を提示したりする
- 主体性の発揮→生涯学習力が高まるのではないか

D グループ
- わかはとモデル→生徒に身に付けさせたい力が何かをよく表している
- 失敗から学ぶ仕掛けとしての単元構成の工夫
- 「失敗してもよい」と思えるようになるために在学中に失敗を繰り返し、解決方法を探る

研究協力者の先生から

〈秋田大学教育文化学部准教授　前原和明先生〉
- 就労支援で重要と言われる職業準備性の一つとして、公共交通機関の利用は重要である。
- 模擬的な場面設定をすることで、注目ポイントを示したり、繰り返し練習する場面をつくれたりしたのはよかった。今後は、実際の場面につながるようなやりとりも必要。
- 授業づくりを教師が楽しんでいると感じた。社会参加の楽しさが生徒に伝わっていてよかった。
- 表のテーマとして「移動のために券を買う」「お金を使う」といった対処(コーピング)のためのスキルの学び、裏のテーマとして問題解決の枠組みをつくっていくという学びがあると感じた。就労支援の中にもSOCCSS法という問題解決の枠組みがある。そういった枠組みの部分を強調していくことがDスタディや生涯学習力につながる。今後は、「人に聞く」などサバイバルなスキルも授業の中で展開できるように工夫していくとよりよくなると思う。

〈秋田大学大学院教授　武田篤先生〉

- 授業の中で子どもたちが自力思考、個別思考をしており、先生がサポートしてまとめて集団思考にしていくという、秋田の探究型授業そのものの形がうまく活用されていた。
- 先生たちが「間違っている」という言葉を使わずにやりとりの中で気付かせていた。中学部、高等部段階ではそういった配慮が大切。
- iPadでつくった券売機の教材を見て、特別支援学校の教材づくりも時代が変わったと感じた。キーノートを使ってあそこまで作れるのかと驚いた。

〈中央教育事務所由利出張所　指導主事　髙橋基裕先生〉
- 子ども主体の単元設定となっており、私の応援計画が活用されていると感じた。
- 導入とまとめのTTの役割分担について、人的環境を含めた場面転換が子どもの集中力には有効。
- iPadでの検索の際に、生徒が教師を待つ場面があった。時間差を想定して、ヒントを用意したり、生徒たちが教え合う場面を設定したりするなど、仕掛けをしてみてほしい。
- ミニホワイトボードが生徒が思考を整理するための仕掛けになっていた。今後、ホワイトボードに番号を付ける、大きさを変えるなど、話合いの仕掛けを準備して、徐々に生徒主体にしていければよいと思う。
- 生涯学習という観点から考えると、いろいろな考えを一つにまとめるというよりは自分に合ったやり方を見付けることが大事であり、そのための場面設定や認める雰囲気をつくっていくことが大事である。
- 指導案では、単元計画の主なねらいの部分が、ステップアップしていくような記載になるとよい。
- わかはとモデルのどの要素がどう身に付いているかを、単元全体を通して定期的に確認したり、本人の身に付いた力を図で整理したりしていけるとよい。
- 単元設定の理由にあった目的意識というのは主体性を育むためにとても大事。目的意識を生み出すために本単元のように振り返りを充実させることは有効な仕掛けである。同時に、学習の成果を生かせる場面を学校全体や家庭と連携して設定していけるとよい。
- 対話から生徒の思い、願いを引き出す私の応援計画と、わかはとモデルが相互に作用して、教師も生徒も必要感が一致する単元構成をしていくという視点がDスタディでは大事な視点となる。

next→ 公開研究協議会　事前研の様子をお伝えします